

平成23年度ノリ養殖概況

水戸 鼓*・野坂元道*・村山史康*・林 浩志

養殖環境 岡山地方気象台が観測した2011年10月から'12年3月までのノリ養殖期間中の旬別平均気温の推移と'11年4月から'12年3月までの降水量の推移を図1、2に示した。

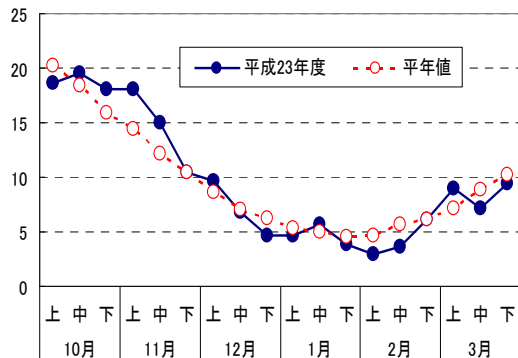


図1 平成23年度漁期の旬別平均気温の推移 (°C)
(岡山地方気象台)

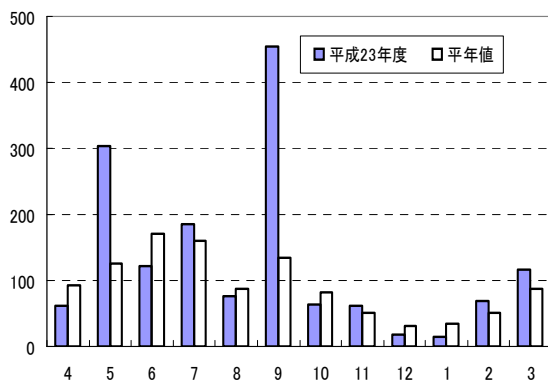


図2 平成23年度降水量の推移 (mm)
(岡山地方気象台)

平均気温は、10月中旬から11月下旬は平年よりも高めであったが、その後は平年並みで推移した。12月下旬から1月中旬は平年よりも低め、1月中旬及び3月上旬は高め、その他は平年より低めであった。降水量は、9月は平年の3倍であったが、10月、11月は平年並み、12月、1月は平年の半分、2月、3月は平年より多かった。

瀬戸内市牛窓町の地先海面に設置した水温自動観測

装置によるノリ生産期間中の水深2m層における日平均の水温経過は、漁期当初の10月上旬から中旬までは概ね平年値並みで推移したが、10月下旬から12月中旬まで平年値よりも1～2℃高めで推移した。その後、12月下旬から1月下旬は平年並み、2月上旬から低めで推移した。

溶存態無機窒素は、12月上旬までは、全県下で例年になく高め(県平均12.5μM)に推移していたが、12月中旬に大型珪藻が増殖したことで、3μMを下回る低栄養塩状態が2月中旬まで継続した。その後、降雨等の影響で回復した地区もあったが、西部地区では1μM前後が漁期終了まで続いた。

採苗及び育苗 県内での採苗は1漁協が実施しており、10月上旬から中旬にかけて約5千枚が採苗された。

育苗開始は24℃以下の海水温を目安とし、前年より若干早めの開始となった。漁場へのノリ網の張り込みは、早い地区で10月14日から開始され、県下全域では10月16～20日をピークに、10月24日までにほぼ完了した。

全県的に塩分が低く、水温の停滞が見られたものの、各地区とも順調に育苗がなされた。

生産 単張りは概ね19℃を目安に11月4日以降に順次開始され、11月19日頃から本格化した。製造の開始は、早い地区で11月19日から、全県的には11月29日頃からとなった。

漁期当初は全県下で水温降下が停滞した影響などによりノリ葉体の流失や成長不良に見舞われ、また、県中部地区では鳥類及び魚類による食害が確認されるなど、生産量は低迷した。その後、12月中旬以降水温が低下し、伸びが良くなり収量は増加した。1月下旬以降、定期的に降雨があったものの、溶存態無機窒素濃度は、12月中旬に発生した植物プランクトンの影響で色落ち限界以下まで減少し、全県的な色落ち被害が発生した。

色落ち被害が進行したため、昨年に引き続き1月19日から吉井川水系の利水者の理解を得て、苫田ダムからの緊急放流が実施された。

その後2～3月は降雨や雪解け水と思われる河川水量の増加によって色調が回復し、一部の漁場を除き、概ね漁期いっぱいの3月下旬まで生産が継続された。

* 岡山県農林水産総合センター普及連携部普及推進課

生産結果 今年度の生産枚数は2.4億枚(前年度比100.8%)、生産全額が21.0億円(前年度比118.2%)、平均単価が8.70(前年度差+1.28)円であった。全国的な不作傾向から単価は高く、平成16年度¹⁾以来となる20億円を超えとなった。

漁協別の養殖規模及び生産量は表1のとおりであった。

1) 山野井英夫・杉野博之・小橋啓介・野坂元道, 2005: 平成16年度ノリ養殖概況, 岡山水試報, 20, 96-97

表1 平成23年度漁協別ノリ養殖施設数及び生産量

漁業協同組合	経営対数	着業世帯数	柵数(柵)	採苗網枚数(枚)	生産量(千枚)
日生町	1	2	450	450	1,637
牛窓町	10	13	4,140	4,140	27,947
朝日	15	15	4,630	5,230	30,570
九幡	6	6	1,726	2,090	14,965
小串	12	12	2,800	3,700	27,862
たまの	2	2	476	540	4,768
胸上	25	29	6,236	6,880	67,177
第一田之浦吹上	1	1	240	240	1,491
第一下津井	4	7	1,760	1,760	8,989
下津井	6	10	2,540	2,620	13,669
黒崎	6	6	3,700	3,700	28,650
笠岡市	3	5	3,760	3,900	13,890
計	91	108	32,458	35,250	241,615
前年対比(%)	98.9	100	104.6	99.3	100.8